

	発行者の略号	教出	教芸
	書名	中学音楽 音楽のおくりもの	中学生の音楽
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	「音楽を愛好する心情を育み、豊かな情操を養う教材と学習を設定する」「学習の見通しをもって、学びを深める」「教師と生徒の一人一人に寄り添って授業を支える」という観点を趣旨として作成されている。	「主体的に学びたい」「何をどのように学ぶのかを明確にすることで、学びがわかる」「生徒の学びが深まる」を基本方針とし、ICTやSDGs、ユニバーサルデザインなどの今日的な課題にも対応した内容となっている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①多くの情報が示されており、写真や教師の説明により知識を身につけることができる。 ①Activeでは、〈共通事項〉を意識した問いが多く、知識・技能を習得するための工夫がされている。 ①共通教材の作詞、作曲者について、曲が作られた背景や作者の思いが多く書かれている。 ②歌唱教材では、各ページに「比べてみよう」と該当のページが記載されており、比較して学習を深める工夫がされている。 ③巻頭ページには、各界で活躍する文化人・音楽家たちの言葉が載せられており、音楽を通じた生き方や伝統を未来につなぐことについて、音楽を愛好する心情を育み、豊かな情操を養う教材として示されている。	①教材ごとにねらいや活動内容が示され、目標を意識して学習に取り組むことができる。また、音楽記号や用語について、説明されているページ番号とともに抜き出して示されており、楽曲を通して知識や技能を身につけられるように工夫されている。 ②「学びのコンパス」では、生徒が考えを深めることができる問いが多く設定されている。 ②キャラクターたちの会話によって疑問やアイデアなどが示され、思考を深めるサポートをしている。 ③巻頭ページには、各界で活躍する文化人・音楽家たちの言葉が載せられており、音楽を通じた生き方や価値観を学ぶための教材として示されている。
	(4) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	市の基本方針に関連している。	市の基本方針に関連している。
	(7) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①歌唱分野、鑑賞分野では学び合うための活動例である「Active」が示されるとともに、楽曲の良さや魅力についてまとめるコーナーや「表現の仕方を調べてみよう」「話し合おう」が設けられている。創作分野においては、教材ごとに作品を発表し交流するなど、主体的・対話的で深い学びを導き出すような配慮がされている。 ②コンピュータとアプリ（技術科）、美術館（美術科）、音の三要素（理科）、外国語の歌唱教材（外国語科）、作曲家の生きた時代（社会科）、道徳教科書と共通の教材「旅立ちの日に」（道徳）など、様々な教科の学習内容との関連が示されている。 ③他者と協働しながら表現を工夫したり、音楽の良さや価値を考えたりする学習を展開するため、キャラクターによって具体的な内容を示したり、「Active」「表現の仕方を調べてみよう」「話し合おう」で考えたことを交流させたりすることで、言語活動が充実するような配慮がされている。 ④日本の音楽が世界の音楽の一部として扱われている。 ④我が国の伝統音楽や郷土の民謡・芸能に関しては、雅楽器の名手からのメッセージが掲載されており、我が国の伝統音楽との関わり方について考える機会がもてるような工夫がされている。 ⑤我が国や郷土の伝統音楽や郷土の民謡・芸能に関しては、実際に歌唱したり、口唱歌を歌ったりする体験活動が示されている。 ⑥小学校学習指導要領の学習内容との系統性が「学習MAP」及び「学習の進め方」を軸に築かれており、音楽科の目標に示された育成を目指す資質・能力を義務教育9年間で実現できるよう配慮されている。 ⑦まなびリンクでは、解説動画や模範演奏等の学習に対応した資料が掲載されている。 ⑧鑑賞分野の時代区分について、すべての題材の右側に時間軸が示されており、他の題材と比較しやすくなっている。 ⑧鮮やかな写真が多く使われており、生徒がイメージしやすい工夫がされている。 ⑧楽譜のページにも写真が入っており、生徒が歌いながら情景をイメージしやすい工夫がされている。 ⑧配色やフォント、ページデザインについてユニバーサルデザインの視点で工夫されている。難しい漢字や固有名詞にはルビがふられている。 ⑨鑑賞「アイダ」では、第2幕のみを掲載しており、写真や説明から生徒が具体的にイメージしながら総合芸術を捉えることができる。	①「学びのコンパス」では、学びの手立てが示されており、生徒が見通しを持って取り組む中で、主体的・対話的で深い学びを実現することができる工夫がされている。 ②著作権について（技術科）、外国語の歌唱教材（外国語科）、俳句を用いた旋律創作（国語科）、日本の音楽と時代背景とのかかわり（社会科）など、様々な教科の学習内容との関連が示されている。 ③知覚・感受したことをもとに思考、判断し、理解したことを言葉や音楽で表現できるよう、各教材において、譜例や図版、吹き出しを用いた説明がされており、それらを活用することで、言語活動の充実を図ることができるよう工夫されている。 ④郷土の伝統音楽に興味を持ち、愛着をもつことができるよう、充実した写真や資料が掲載されている。また、自分の住む地域の文化にも親しむことができるよう、各地の民謡や祭り、芸能が取り上げられている。 ⑤我が国や郷土の伝統音楽を学習する際に、歌ったり手を打ったりする体験活動が示されていたり、「指揮をしてみよう！」では、鑑賞曲や歌唱曲を聴きながら指揮をすることで、基礎を学びながら実感をもって豊かな音楽活動につなぐことができるよう配慮されている。 ⑥歌唱分野では、合唱の編成や各パートの音域について、学年に応じた配慮がされている。特に1年生では、変声期に対応できるように作られている。 ⑥共通教材の学習目標について、学年が上がるごとにステップアップしており、3年間を通して発展させながら、取り組むことができる。 ⑥創作分野では、小学校の学習を継続、反復、発展させながら、生徒の発達段階に沿って系統的に学べるよう構成されている。 ⑦歌唱分野の二次元コードを読み込むと、全体の音源や伴奏音源だけでなく、パート別の音源も入っている。 ⑦創作分野では、デジタルコンテンツが教科書紙面と同じ体裁になっており自分が創ったものを簡単に再生することができたり、作品の共有をしたりすることができる。 ⑧鮮やかな写真が多く使われており、生徒がイメージしやすい工夫がされている。 ⑧題材名の横に学習目標を達成するための問いが書かれているため、教師にとっては授業づくりがしやすく、生徒にとっては学習にあたり何を意識するべきかが明確になっている。 ⑧配色やフォント、ページデザインについてユニバーサルデザインの視点で工夫されている。難しい漢字や固有名詞にはルビがふられている。 ⑨鑑賞「アイダ」では、すべての幕から1曲ずつ掲載されており、学校の実態に合わせて授業を行うことができる。
(4) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①適切である。 ②共通教材の作詞・作曲者の紹介が楽譜のあとにある。 ②ページ同士を接着した丈夫で長持ちする様式のものとなっている。 ③中学生の発達段階に合わせてルビがふられている。 ③題材に適した写真や挿絵が使われており、生徒がイメージしやすい工夫がされている。	①適切である。 ②共通教材の作詞・作曲者の紹介が楽譜の前にある。 ②ページ同士を接着した丈夫で長持ちする様式のものとなっている。 ③ページ全体を使った大きな写真が、歌唱共通教材について、楽曲の世界や歌詞の内容をイメージしやすくしている。	
イ 教科・種目別の観点	①表現及び鑑賞の基礎的な能力を養うために、〔共通事項〕をよりどころとして、主体的・協働的な学習の展開が図られるような工夫や配慮がなされているか。	①目次とは別に、表現及び鑑賞の学習内容を系統的にまとめたページが設置されており、学びの内容、関連する共通事項などが確認できるようになっている。また、小学校6年間の「学習マップ」を受け継いだ内容となっている。	①目次とは別に、表現及び鑑賞の学習内容を系統的にまとめたページが設置されており、学びの内容、関連する共通事項などが確認できるようになっている。 ①創作教材では、学びの手順とワークシートが示されている。
	②「A表現」や「B鑑賞」の教材は、学習を積み重ねていくことができるよう、系統的、発展的に配列されているか。	②我が国や世界の舞台芸術について、各学年で扱いがあり、系統的な学習が可能である。	②我が国や世界の舞台芸術について、各学年で扱いがあり、系統的な学習が可能である。 ②郷土の音楽についての扱いが各学年であり、3年間を通して郷土の音楽に触れる機会を作ることができたり、知識を得たりすることができる。 ②共通教材の学習目標について、学年が上がることにステップアップしており、系統的な学習が可能である。
	③音楽文化の理解について、多様な音楽を、身の回りの生活や社会と関連させながら学習するための工夫や配慮がなされているか。	③著作権について、著作権のあるものとなないものが具体的に示されているため、わかりやすく、生徒がイメージしやすい工夫がされている。	③「生活や社会の中の音や音楽」では、学年に応じたテーマのもとに、音や音楽と、生活や社会、文化とのかかわりについて、段階的に視野を広げて考えられるような工夫がされている。